



とちぎに広がる

UNIVERSAL ユニバーサル 農業

誰もが元気&笑顔になれる
とちぎの取り組み

そろそろ

ユニバーサル農業って何？

UNIVERSAL(ユニバーサル)とは、英語で「一般的」「共通」という意味。つまり、年齢や性別、障害の有無などに関わらず、誰もが参加したり実践できる「農」の取り組みがユニバーサル農業。農業には、安全で安心な食料を安定的に供給するという重要な役割のほかに、心を癒やしたり、体を動かすことで体力が向上したり、食育など、さまざまな効用がある。その効用を生かしながら農業に携わる人と県民みんながつながり、元気や笑顔をたくさん作っちゃおうという活動が、県内各地で始まっている。期待されるのは、農業分野と福祉分野の連携だ。「農」は、癒やしやリハビリテーション等の驚くべき福祉力を持っている。

たとえば

とちぎヒーリング・ファームの取り組み

ユニバーサル農業の取り組みの一つとして、癒やしとふれ合いの体験農園「とちぎヒーリング・ファーム」がある。これは、農業体験や農作物の栽培講習会、農村との交流会をはじめ、さまざまな体験メニューやプログラムを楽しみながら、誰もが「農」とふれ合うことができる実践の場。園路をバリアフリー化したり、椅子に座った状態のまま作業ができるようにするなど、施設改善の取り組みも大切だ。県では、これらの運用例をまとめた冊子を発行し、県内の市民農園や体験農園への普及をすすめている。

すなわち

“知る”ことが大切。

おいしい農作物を自分で育てたい、農業を楽しみたい、農村の人と交流したい…そんな願いを叶えるために、まずユニバーサル農業を“知る”ことから始めてみよう。そして、できることから取り組んでみる。農を通して、とちぎに生きる喜びが体感できるかも知れない。

- 問い合わせ先
- 栃木県農政部農政課食育・地産地消担当 ☎028-623-2288
- 栃木県河内農業振興事務所企画振興部 ☎028-626-3076
- 栃木県上都賀農業振興事務所企画振興部 ☎0289-62-5236
- 栃木県芳賀農業振興事務所企画振興部 ☎0285-82-4720
- 栃木県下都賀農業振興事務所企画振興部 ☎0282-23-3425
- 栃木県塩谷南那須農業振興事務所企画振興部 ☎0287-43-1252
- 栃木県那須農業振興事務所企画振興部 ☎0287-23-2151
- 栃木県安足農業振興事務所企画振興部 ☎0283-23-1455

とちぎユニバーサル農業



誰もが笑顔になる新たな農福連携の形

社会福祉法人飛山の里福社会 宇都宮市

Win-Win の農作業受託を礎に
地域活性化を目指す

職業としての農業を、一般就労が困難な人の支援に活用しようという取り組みを行っている宇都宮市の社会福祉法人飛山の里福社会（ハート飛山）。福祉施設近郊の農家グループから、畑の除草作業や後片付け、収穫補助等の作業を受託し、年間を通して農作業を行うほか、地域内5つの施設と連携して立ち上げた直売所での販売を行っている。同施設の直井理事長が目指すのは「施設入所者の工賃向上と地域の野菜や施設で作ったパンや焼き菓子などの販路拡大、地域の農産物を活用した6次産業化」。ボランティアではなく、入所者の能力に応じた作業を受託し工賃を得ることが、就労支援につながっている。「作業に熱心に取り組む姿は感動的」と、入所者を見つめる農家さんも満面の笑顔。



福祉施設から近いという地の利を生かし、除草作業をはじめとする農作業を受託。人手の足りない農業者と、就労支援を受ける施設利用者双方が Win-Win の関係を築いている。



①一人ひとりの能力に合わせた作業を割り振り、さまざまな農作業を行う②笑顔でつながる社会福祉法人飛山の里福社会の直井理事長（左）と、阿久津農園の阿久津代表（右）③清原地区の福祉施設と農業関係者による「清原地区ユニバーサル農業研究会」が運営する「アグリマルシェよはら」で野菜やパン、焼き菓子等を販売

高齢者施設を中心に広がる園芸・農業活動

とちぎいやしの園芸研究会 鹿沼市

植物に触れ、育て、楽しみながら
生きる喜びを分かち合う

「いやしの園芸」の学習・研究・普及に取り組む「とちぎいやしの園芸研究会」の事務局は、鹿沼市の社会福祉法人久寿福祉会。高齢者施設と保育園が建つ敷地を囲むように農園が整備され、給食の材料となる野菜類やブルーベリー、ブドウなどの果実類が栽培されている。「地域の農家さんから管理作業委託を受けた遊休農地を整備し、高齢者の園芸活動や園児が土と触れあう場として活用しています」と話す関口理事長。高齢者施設を立ち上げた後に園芸療法や農のいやしの効用に着目し、福祉施設を中心とした園芸ボランティアのあり方や実践方法を20年以上にわたり模索してきた。今ここでは、同研究会メンバーと高齢者、子どもたちが笑顔で生きる喜びを分かち合っている。



園芸セラピーを提唱するマロニエハーブスクールの葛山代表が中心となり、毎月1回の園芸活動を15年間継続。この日は初夏のハーブアレンジメントを作り、美しい花々と採れたてハーブの香りを楽しんだ。



①車椅子に座った状態で植物と触れあえる「花びら型コミュニティプランター」を導入②農園内の通路はシートで歩きやすく整備。保育園施設のお散歩コースとしても活用③子どもたちと高齢者が農でつながる「祖父母会」。この日行ったのはサツマイモの苗植え。土と親しみながら園児が大活躍